

サンクチュアリ教会およびUCIを支持する人々の言説の誤り(17)

UCI(いわゆる「郭グループ」)を支持する人々は、二〇一六年秋以降から各地で集会を行って金鍾奭著『統一教会の分裂』の日本語訳の書籍を広めています。この書籍の内容は、真の父母様を不信せよとする。虚偽のストーリーです。今回はその問題点を取り上げます。

なお、これらの内容を総合的に理解し把握するためには、「真の父母様宣言」(http://trueparents.jp/)の掲載文や映像をごらんください。

注、真の父母様のみ言は「青い字」で、UCIおよび反対派の主張は「茶色の字」で区別しています。

教理研究院

二十一、虚偽のストーリーでつづられた『統一教会の分裂』

UCI(いわゆる「郭グループ」)を支持する人々が、二〇一六年秋頃から各地で集会を行って広めている金鍾奭著『統一教会の分裂』(日本語版)には、真のお母様をおとしめる「み言改竄」や「誤訳」が散見します。

まず、韓国語版の『統一教会の分裂』では、み言を継ぎはぎ

することによって「み言改竄」を行っており、その真意を歪曲させています。そして、さらに日本語訳では、その文章を自分たちに都合の良いように悪意を持って「誤訳」しています。この『統一教会の分裂』(日本語版)は三百四十ページに及ぶ書籍ですが、その内容は読む者を失わせるように巧妙に仕組まれていることに注意しなければなりません。

ぼした韓鶴子がいた(116ページ)。文仁進の米国総会長の就任、二〇〇九年三月の束草事件も陰謀によるものであった(120、152ページ)。(注、これを簡潔に表現すると「真のお母様陰謀論」ということになる)その策略により、三男の顯進は数々の陰謀にはめられ、後継の座から追い落とされた。陰謀が渦巻くなか、後継者を誰にするかについて、創始者の態度はハッキリしなかった(69〜70ページ)。この創始者の態度が、統一教会に混乱を招くことになった。また、韓鶴子は創始者の血統を疑っており(110、308ページ)、創始者に対して「不従順」であった(245〜253ページ)。創始者はそのことに苦心していたというのが真相である。

以上が大まかな内容です。この書の問題点は、「真のお母様陰謀論」を何とか裏づけようと、要所、要所でみ言の隠蔽、改竄をしており、真の父母様の実体、真のお父様のみ言と食い違っていることです。この内容は「虚偽のストーリー」です。

創始者が他界した統一教会は危機を迎えている。創始者のアイデンティティが韓鶴子のアイデンティティによって否定され

また、総論的な「韓鶴子の不従順」(245ページ)という項目では、真のお父様のみ言を十八個も引用していますが、マルスム選集の原典に当たってそ

真の父母様宣言布文サイトはこちらから↓



(1)み言の隠蔽、改竄を重ねる、歴史に残る「瀆神行為」そこに書かれた概要は、次のようになります。

露しようとして画策したが(85〜86ページ)、國進は嘘つきであり、創始者は彼の嘘に激怒した(90ページ)。

「統一教会の創始者(注、真のお父様)の子息のなかで、後継者に最もふさわしい人物は三男の顯進であった。彼は、自他が公認する統一教会の後継者であり(58ページ)、外貌から見ても創始者に似ており、性格も似ている。彼の登場は、統一教会が再強化される機会であった(60ページ)。学歴など、彼の能力は、父とは異なつて天の啓示にだけ依存しない合理的かつ理性的で、統一教会を復興させる希望を呼び起こすものだった(61ページ)。また、顯進を支える郭錠煥は、公務の処理に厳格であり、立場を与えられても清廉な生活をし、公金横領が一切なく、模範的な人格者であった(87ページ)。

七男の亨進は、宗教性はあるが、自分の宗教性に頼り統一教会の伝統を歪曲することで統一教会のアイデンティティに混沌をもたらした(104ページ)。國進や亨進は後継にふさわしくない。にもかかわらず、彼らは顯進に代わつて統一教会の後継の座に登場するようになる。その過程には、「パークワン事業」に対する文國進の偽りの報告」があり(91ページ)、創始者を巻き込んだ訴訟まで起こした。これらの出来事は、顯進を追い落とすための陰謀であった(95〜97ページ)。

一方、四男の國進は、郭錠煥を要注意人物と考え、不正を暴れらを検証すると、全てのみ言が改竄されています。この改竄行為は、真の父母様をおとしめるものであり、多くの人々の判断を誤らせる、歴史に残る「瀆神行為」と言わざるをえません。

まず、「先生が靈界に行くよ」うになればお母様が責任を持つ」ということであり、次に「息子・娘」ということです。そして、注目すべき点は「息子がいなければ、娘がしなければなりません」と語っておられる点です。このように、真のお父様は、相統者としての「後継」の問題について、その秩序を明確にしておられます。

(2)お父様の「後継の秩序」は明確である

『統一教会の分裂』では、「後継者を誰にするかについて、創始者の態度はハッキリしなかった(69〜70ページ)と述べますが、事実とは違っており、真のお父様の後継に関する秩序は明確なものでした。

また、真のお父様は七十歳の古希のとき、「私(注、お父様)がいなくても、お母様の前に一番近い息子・娘が第三の教主になるのです」(同202-83)

「先生が靈界に行くようになればお母様が責任を持つのです。その次には息子・娘です。息子がしなければなりません。息子がいなければ、娘がしなければなりません。後継する者が誰だということには既に伝統的に全て(準備が)なされています」(マ

84)と明言され、さらに「先生が一人でいても真の父母様の代身であり、お母様が一人でいても真の父母様の代身です。『レバランド・ムーンが古希を過ぎて七十を超えたので後継者が現れないのか?』そんな言葉はやめなさい。……先生が第一教主、

その次に、お母様は第二教主だ
ということですよ」(同201-
126)と語っておられます。
このように七十歳や八十歳の
節目のときに明確に後継の秩序
を述べておられるというのが真
相です。そして、九十歳のとき
に真のお母様との「最終一体」
を宣言しておられます。

ところで、二〇〇〇年三月三
十一日、顯進様(ヒョンジン)が世界大学連合
原理研究会の世界会長に就任し
ました。その頃から、その関係
者が顯進様を真のお父様よりも
前面に押し立てて報告するよう
になっていきました。それを受
けて、お父様は同年五月三十一
日、顯進様に対し「警告」のみ
言を語っておられます。

「父の伝統に従って、母の伝
統に従って、三番目に息子で
ある。それを知っているの？
……母の伝統を立てる前に息子
の伝統を立てることができない
ことを知っているの？」(マル
スム選集323-83)

るのは、拉致監禁による強制脱
会の道が困難になった反対派が、
家庭連合と別行動を取っている
UCIに擦り寄り、今やその背
後から「家庭連合潰し」を画策
している可能性が高いのではな
いかということですよ。

一九九三年三月の山崎浩子さ
ん失踪事件を前後し、反対派は
「統一教会潰し」を画策してさ
まざまな統一教会批判を展開し
ました。山崎浩子さんを脱会説
得した一人である浅見定雄氏は、
その著書で、真のお父様に兄や
姉妹がいることを根拠に、お父
様は「無原罪」ではありえない
と批判して教会員を脱会説得し
ていました。

ところで、顯進様は、後述す
るように二〇〇九年九月以降、
真のお父様の前に姿を見せなく
なり、たもとを分かちました。
それから七年が過ぎ、『統一教
会の分裂』の書籍が出版され、
UCI側はそれを広めました。
この書籍の内容は、「真のお母

このように語られ、まず父、
そして母であり、息子は三番目
である、と念を押されたうえで、
「顯進は私が前に立たせている
のです。立たせることで、先生
より前面に押し立てて報告する
などということです。分かりますか。
何のことか？ 統一教会から党
派をつくる輩(分派)になりま
す。……恐ろしく、とんでもな
いことです。ですから、転換時
代に精神を引き締めなければな
りません」(同323-91-92)
と語っておられます。

重要なこととして、まず父、
そして母、それから、真のお母
様にいちばん近い息子・娘とい
うのが、真のお父様が明確に指
導しておられる「秩序」という
ことになります。お父様は、父
と母が立てた伝統に従って息子
が伝統を立てるように忠告して
おられるのです。

さらに、真のお父様は、世界
平和統一家庭連合時代とは何か
について、「長子と次子は母親

様陰謀論」を描いており、特に
「韓鶴子は創始者の血統を疑っ
ている」という点に中心テーマ
を置いて批判しています。そ
の『統一教会の分裂』が広く行
き渡った二〇一六年暮れ、UCI
I側の人物によって、まるで真
のお母様がお父様の血統を疑っ
ているかのような情報が世界を
駆け巡りました。偶然にしては
「できすぎ」という思いを持た
ざるをえません。

ちなみに、真のお母様は五十
七周年「聖婚記念式」の場で、
「原罪なく生まれた独り子、独
り娘が、天の願いに従って小羊
の婚宴を挙げた日です」(『世界
家庭』二〇一七年五月号、6
ページ)と、真のお父様もお母
様も共に無原罪で生まれたこと
を語っておられます。

(4) UCI(いわゆる「郭グ ループ」)問題の経緯

一九九八年七月十九日、顯進
様が「世界平和統一家庭連合」

の名のもとに絶対服従しなければ
ならないのです。服従する
ようになれば父と連結します」
(『主要儀式と宣布式Ⅲ』151
ページ)と語られ、母を通じて
父に連結するように指導してお
られます。したがって、後継の
問題に関して、お父様の態度が
曖昧であったというのは虚偽の
主張です。

(3) 『統一教会の分裂』の内 容は、反対牧師らの言説と酷似

ところで、『統一教会の分裂』
を読んで懸念することは、そこ
に書かれた主張が、いわゆる反
対派の、「真の父母」を不信さ
せようとする統一教会批判と驚
くほど酷似しているという点に
ついてです。

日本統一教会では長年にわ
たり、信者に対する拉致監禁
を伴った強制的脱会説得事件
の被害に遭ってきました。そ
の際、反対牧師、反対弁護士、
ジャーナリストらがその背後に

の世界副会長に就任したことで、
信徒の中には、顯進様が真のお
父様の「後継者」であると考え
る人もいました。しかしながら、
家庭連合の教えは、「真の父母
というの是一組しかいないので
す」(八大教材・教本『天聖經』
2400ページ)というように、
人類の真の父母は「永遠に一組」
というものであり、人類の真の
父母に後継者は存在しません。

キリスト教が二千年間イエス様
と聖霊を中心と歩んだように、
天一国も、文鮮明・韓鶴子ご夫
妻が、永遠に唯一なる人類の真
の父母であられるのであり、そ
ういう意味で「真の父母」に後
継者は存在しないのです。

ところで、二〇〇八年四月十
八日、亨進様(ヒョンジン)が家庭連合の世界
会長に就任した頃から、顯進様
は真の父母様の指導や指示に従
わず、別の動きをすることが顕
在化するようになりました。二
〇〇九年三月八日、韓国・東草
で、真のお父様は顯進様に対し

あって父兄たちを教唆するなど
し、脱会説得に関わってしまし
た。一九九三年三月六日の山崎
浩子さんの失踪事件の背後に
は、有田芳生氏や石井謙一郎氏
らジャーナリストによる山崎さ
ん入信スクープがあり、強制的
な脱会説得事件の一翼を担った
立場で報道がなされました(参
考、太田朝久著『有田芳生の
偏向報道まっしぐら』賢仁舎)。

『統一教会の分裂』に書かれて
いる「ストーリー」は、反対派
一郎氏による「統一教会批判」の
内容に極めて酷似しており、石
井氏の批判記事をわざわざ13
5ページで紹介しています。有
田芳生氏も、この石井氏の批判
記事に寄稿をしており、「日本
幹部の中には、三男の顯進氏に
ついていきたくないという動きがあ
るんです。(顯進氏は)もともと
人望が高かった」と述べて、思
い切り顯進様を持ち上げています。
これらの事実を踏まえて感じ

「全ての公職から退き、父母と
共に生活しながら『原理』を学
ぶように」、「GPFから一年間、
休むように」と指示されました
が、顯進様は従わず、同年九月
十日を最後に、真の父母様の前
に姿を見せなくなりました。
また、郭錠煥氏も同年十二月を
最後に、真の父母様の前に姿を
見せなくなりました。

二〇一〇年二月、顯進様はG
PF大会を開催し、それに対し
て真のお父様は再度、「GPF
大会をしてはならない」と指示
されましたが、その後も大会を
強行していきました。

顯進様は、同年四月二十七
日、家庭連合およびその関連
団体の資産を管理するUCI
(国際統一教会、Unification
Church International)の理事
会を乗っ取り、真の父母様の指
導や許可を得ずに公的資産を
売却し、定款も改定し、「国際
統一教会、Unification Church
International」の名称を単にU

CIに変えて統一教会および真の父母様との関係を断絶させ、それを運営するようになりまし

た。そうした状況の中、二〇一一年五月二十五日、真の父母様は「真の父母様宣布文」を発表され、その中で、顯進様をはじめUCI理事陣（顯進様を中心とするグループ）に対し「即刻現職から退くこと。許諾なく公的資産を処分して得た全財産を返還せよ」と指示されたのでした。しかし、顯進様はその指示を完全に無視し、別行動を続けています。

なお、顯進様らが活動に用いている財源であった家庭連合およびその関連団体の資産について、米国の裁判所が二〇一六年十二月二十三日、「GPFおよびその他の世界平和統一家庭連合と無関係のいかなる存在・組織へのどんな種類のどんな寄附をも禁じる」との仮差し止め命令を下し、UCI側の資産処分

に歯止めをかけています。

ちなみに、『統一教会の分裂』は、「顯進は）創始者のアイデンティティを維持しながら、それを創意的に拡大しデザインしようとしている」（323ページ）と述べていますが、映像『UCIを支持する人々の言説の誤り・No.1』（https://trueparents.jp/page_id=3778）で説明したように、顯進様の説くアイデンティティは、真のお父様の語られるアイデンティティとことごとく食い違ったものになっています。

そのような中において、故・神山威氏が顯進様に従おうとしたときには、真のお父様は神山氏を呼ばれ、二〇一〇年七月十六日のいわゆる「ボート会議」で次のように語られました。「（顯進は）もう、ずっと前に離れたんだよ、十年前に」、「顯進は先生と同じ方向に向いていない。逃げ回っている。顯進が先生の方向に来なければならな

いんだよ」、「なぜ先生に質問しないで顯進の方に行くのか」、「顯進は先生と同等の立場を取っている」と語られました。

顯進様のアイデンティティがことごとく真のお父様のみ言と食い違っている事実を考えたとき、お父様が「逃げ回っている」と残念そうに語られたように、お父様は何とかがして、み言と食い違ったアイデンティティを主張している顯進様を教育しようとしておられたに違いありません。事実、二〇〇九年三月八日、韓国・東草で、お父様は顯進様に対して「顯進、おまえも別の所に行かず、父の所に来て、父に付いて回りなさい」（マルスム選集6091133）と直接、命じておられます。そして、特別に顯進様に、真の父母様に対する学習をしなさい、カイン・アベルの関係を勉強しなさいと指示されました。

しかし、その真のお父様の指

導にも従わず、前述したように、同年九月以降、真の父母様の前に姿を見せなくなってしまうたことに対して、深く心を痛めざるをえません。

二〇一七年暮れ、顯進様は「家庭平和協会（FPA）」という組織を立ち上げ、「FPAは、創始者が世界平和統一家庭連合を通して実現しようとしていたものを目標としている」（『統一教会の分裂』314ページ）と

平坦と述べるなどし、分派の動きをさらに強めています。以上の経緯を踏まえて考えてみると、事の真相は『統一教会の分裂』が述べているような「真のお母様陰謀論」によって顯進様が追い出されたというのではなく、真のお父様のみ言と食い違う主張をし、顯進様がお父様の願いに従わずに別行動を

取り続けたということです。その結果が、今のような状況を招いていると言わざるをえません。

（5）『統一教会の分裂』の最大の問題点は、お父様の「認識」を完全無視していること

ところで、真のお父様ご自身が持つておられる認識とは、**「天人真の父母定着完了」**というものであることを、私たちは知っておかなければなりません。

『統一教会の分裂』の最大の問題点は、この真のお父様ご自身の「認識」を無視して論じている点です。『統一教会の分裂』では、**「韓鶴子はお父様の血統を疑っており、お父様に不従順であった。その韓鶴子の不従順に対し、お父様は苦心しておられたのが真相だった」**として、お父様と真のお母様は一体化できていないと述べています。しかしこれは、お父様ご自身の認識と完全に異なっています。真のお父様ご自身の認識は次

のようなものです。

二〇一〇年六月十九日と同年六月二十六日、米国・ラスベガスで「最終一体」を宣言しておられ、その後、世界を巡回されながら「天人真の父母定着実体宣言布天宙大会」を挙行していかれました。そして二〇一二年の年頭標語で「**天人真の父母勝利解放完成時代**」を発表され、同年三月には日本で「天人真の父母様勝利解放完成時代宣言大会」を開催されたうえで、第五十三回「真の父母の日」に、『**「天人真の父母定着」**……さえ成れば、全てが終わる」と語られました。そして、同年四月十四日、米国の天和宮で「**天人真の父母定着実体宣言布天宙大会を最終完成・完結する**」と宣布され、その七日後の四月二十一日、韓国の清心平和ワールドセンターで「**天人真の父母様特別集会**」を開催されました。その大会で、真のお父様は「**天人真の父母定着**

完了」という講演文を発表され、「**栄光の宝座に座る人は、億千万代においてただ一つの夫婦（文鮮明・韓鶴子ご夫妻）であって……万王の王はお一方です」と明確に発表しておられます。これは、「真の父母」の完全勝利の宣言と言いうるものです。**

結局のところ、『統一教会の分裂』の内容は、これら一連の真のお父様ご自身の認識を完全無視して論じている、虚偽のストーリー」にほかなりません。

そのような意味から、『統一教会の分裂』という書籍は、歴史的な瀆神の書であると言わざるをえないものです。特に、この書の総論的な「**韓鶴子の不従順**」（245ページ）という項目では、すでに述べたように、真のお母様の不従順を何とかして裏づけようと、真のお父様のみ言を十八個も引用しています。が、マルスム選集の原典に当たってそれらを検証すると、全

てのみ言が改竄されたものになっています。これは**歴史に残る最悪の書物**であると言わざるをえません。

この問題の書である『統一教会の分裂』を広めるUCIを支持する人々は、真のお母様に対する信仰が崩壊した人であり、また、真のお父様に対する信仰についても同様であると言わざるをえません。なぜなら、お父様を心から信じ、敬い、侍る（侍）気持の満ちた人が、このように平坦と「み言改竄」や「誤訳」をするなどということはありえないはずだからです。このようない点を見ても、お母様の亡き後、顯進様のもとに集まれば、お父様の伝統が再び復活するなどということとは、絶対にあるえないというのが、この書籍を読んだで得た明確な結論です。

この偽りの書籍『統一教会の分裂』にくれぐれもだまされないうような気をつけなければなりません。